

今号の内容

- 石仏と干支との関連性
- 図録紹介「ちょっと昔の着物語」
- CD ゴマを作ろう
- 富士見市資料館友の会 和島誠一賞表彰状
- 秋のイベント予定

せきぶつ え と

石仏と干支との関連性

市民学芸員 磯部 正博



庚申塔(園内)



弁財天(阿蘇神社)



馬頭観世音(渡戸観音堂)

かつて資料館友の会拓本部会の仲間と市内の石造物を調査しました。石仏の造立年と暦の干支との関連が気になり今回、表にして考えてみました。

干支とは十干(甲乙丙丁…)と十二支(子丑寅…)の60通りの組合せによるサイクルです。

①庚申塔は庚申の年に多く建てた?

庚申は60年や60日に1度、定期的に訪れます。市内には36基の庚申塔があり、うち庚申の年に造立されたものが5基あります。また庚申塔は名称や像塔の意匠(写真の像には足元に三猿がある)から申とも関連がありそうです。

庚申の年が巡る割合 ※60年に1度	$1 \div 60 = 0.016 \dots$	約1.6%
庚申塔36基のうち 庚申年造立5基の割合	$5 \div 36 = 0.138 \dots$	約13.8% ↑

②弁財天は巳年に多く建立された?

もともと河川を由来とする弁財天は入間東部地区の中で湧水の多い富士見市に多く集中していて、年代のわかるもので28基確認されました。像塔の弁財天の多くが天女像の上にとぐる蛇や鳥居を冠していて(写真も同様)、文字塔でも巳待とか巳待講中とか彫られているものがあって巳と関連がありそうです。

巳年が巡る割合 ※12年に1度	$1 \div 12 = 0.083$	約8.3%
弁財天28基のうち 巳年造立5基の割合	$5 \div 28 = 0.178$	約17.8% ↑

③馬頭観世音は午年に多く建立された?

馬頭観世音は市内には多く、年代不明のものを除いても81基ありました。うち午年建立は4基で午年との関連は低いです。しかし写真の様な像塔は10数基ありまたその名称から午年との関連は明らかです。

午年が巡る割合 ※12年に1度	$1 \div 12 = 0.083$	約8.3%
馬頭観音81基のうち 午年建立4基の割合	$4 \div 81 = 0.049$	約4.9% ↓

まとめ

「庚申の日」「巳の日」など、『白待』としての信仰は日常的だったのでしょうが、60年ごと、12年ごとなど長さを考慮すると庚申塔や弁財天の干支年での造立割合は高いと思います。一方、馬頭観世音の事例は干支年に限らず日常的な馬の供養を大事にしたとも考えられます。これらの傾向は市内の数値による検討です。いつか機会があれば全国的に当てはまるかどうか調べてみたいと思っています。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介

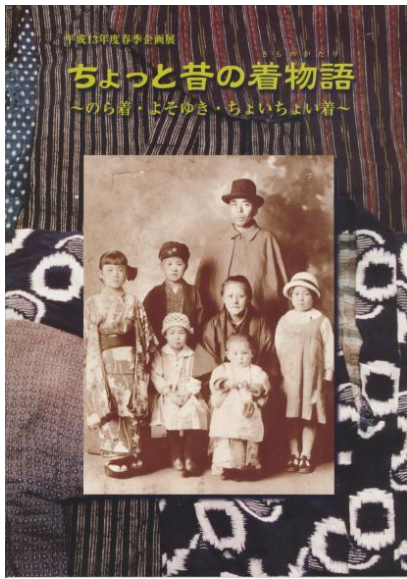
図録『ちよっと昔の着物語』(平成14年)

この図録のみどころは、昭和の始めから中頃までの「のら着」「よそゆき」「ちよいちよい着」と分類した着物の説明、そして、なつかしい方々のお写真やお名前がたくさん紹介されていることです。私の親友のご実家も紹介されていました。そのようなことが、よりいっそう、戦前、戦後の生活文化(特に女性)の移り変わりを身近に語りかけてきます。

この図録の1ページ目の「開催にあたって」の中で、「今回の企画展では、自分の手で衣服を仕立て、着ていた、ちよっと昔の暮らしを知るとともに、先人の智慧や技にふれる機会としていただければ幸いです」とあります。また、当時の市民学芸員で企画展サポーターだった方々の感想が記されていることも特徴です。

その一部を引くと、
阿部さん この企画展は、代々母より娘に伝えられてきた女性の力強い心の結びつきと生活の知恵がハッキリ表れています。
塩入さん 人と衣服の係わり、つきあい方を考える、良い機会を与えていただきました。

山田さん 便利さや手軽さのみを追求し、その結果捨ててきたものの大きさを改めて感じた。
これらの感想はこの図録に対する巷ちよまたの人々の感覚に通じると思えます。



資料館窓口にて 300 円で販売中

図版も多く、是非アルバムの横に並べたい図録です。(松本恭子)

きものがたり

そして CD の中央の穴にビー玉をセロテープで固定し上にキャップを付けて完成です。

このコマはバランスが良くなる作りです。そのため小さなお子さんから大人まで色鮮やかに長く回り大喜びでした。

参加者の皆さんはできあがったコマを嬉しそうに持ち帰っていただきました。

今度は参加者の皆さんから、身近なコマの作り方をまわりの方に伝授していただき、さらに大勢の方が楽しんでくだされば嬉しいです。

(早川純彦)



おもしろ・なつかし体験⑦

CD コマを作ろう

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

5月14日(日)のちよっと体験は、不要なCDを利用してコマを作る「CD コマを作ろう」でした。

天気は前日からの雨が断続的に続く曇り空でしたが、親子10名の方に体験していただきました。

コマの材料はCD、ビー玉、ペットボトルのキャップ、様々な色の折り紙、そしてセロテープと糊です。

作り方は以下の通り。まず色とりどりの折り紙をできるだけ細かく、自分の好きな形に切ります。そして切った折り紙をCDに模様になるように糊で付けていきます。

この時は皆さん、回転した時にきれいな絵柄が生まれるよう考え、工夫して一生懸命に貼り付けていました。自由に折り紙を貼るので一つ一つが独創的なマイコマに仕上がりますので、できあがりを楽しみます。

人の創ったもの★人の使ったもの

富士見市資料館友の会

和島誠一賞表彰状

令和5年6月25日、富士見市資料館友の会が、文化財保存全国協議会第53回京都大会で和島誠一賞を受賞しました。友の会と、受賞した和島誠一賞について紹介します。

資料館友の会

富士見市では昭和48年(1973)に考古館が設置されました。貧弱な施設だった考古館は教育普及事業に力をいれました。継続的な事業に参加した市民とともに、昭和58年(1983)に友の会を発足しました。拓本部会、土器づくり部会の2部会でスタートし、その後も昭和63年(1988)に木綿部会、平成2年(1990)に竹かご部会が誕生しました。平成12年(2000)には水子貝塚、難波田城の資料館2館体制が整いました。平成14年(2002)にはふるさと探訪部会が加入し、現在の5部会の形ができあがりしました。

友の会と資料館(考古館)は発足時から協働を重視していました。資料館側がボランティアの制度化を

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

検討すると、友の会側もその大半(85%)の方が協力の意思を示しました。これが今の市民学芸員制度実現の後押しとなり、制度実現後も市民学芸員として多くの方にご参加いただきました。

文化財保存全国協議会と和島誠一賞

文化財保存全国協議会は昭和45年(1970)年に結成された、市民を中心として遺跡や文化財を守るための活動をする全国団体です。

同協議会では、平成12年(2000)に、遺跡保存の先覚者である和島誠一の名を冠した賞を創設し、広く全国で文化財の保護、活用、普及などに顕著な活動を行った個人・団体を表彰しています。

今回、資料館友の会は「長年にわたって富士見市の地域の歴史や文化財について学びながら、さらに伝統的な技術を次の世代に伝えていくことをふくめて活動を続け」「地域がたどった歴史や文化財を現在の市民がどのように享受し、また発展させるかを多くの市民や行政に示したものである」という評を得て受賞しました。

富士見市と和島誠一

原始古代の集落研究を主に行った和島誠一は水子貝塚の発掘にも携わり、水子貝塚を縄文時代の集落の代表例としています。その成果もあり、昭和44年(1969)に水子貝塚は国指定の史跡となりました。

資料館友の会の今とこれから

資料館友の会も他の多くの市民団体と同様に、いかに長年の活動成果を次の世代に伝えていくかという問題に取り組んでいます。これは難しい課題ですが、これまでつちかかってきた経験と技術、そして「人」という最大の財産が残るうちは世代交代の波も乗り越えることができるのではないのでしょうか。

なお、資料館では、友の会などの活動成果を今秋の企画展(10月14日～1月8日)で展示します。御覧いただくとともに、興味のある方は次世代の担い手に加わっていただければ幸いです。

(田ノ上 和宏)



秋のイベント予定

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

臨時休園のお知らせ

11月20日(月)から22日(木)は、園内設備更新のため、**臨時休園**致します。公園・古民家・資料館すべて入れません。
ご理解ご協力をお願い致します。

●ミニ展示「関東大震災と富士見」

関東大震災から100年。市内に残る資料により関東大震災の衝撃を紹介します。

会期/9月1日(土)~10月1日(日)

●マイミュージアム

「富士見市古城をめぐる会」

会期/9月1日(土)~24日(火)

●富士見市児童・生徒社会科展

市内小中学生による、夏休みの自由研究の作品を展示します。各校から選ばれた約80作品です。

会期/9月30日(土)~10月9日(日)

●資料館活動団体作品展(前期)

友の会結成40周年を記念して手作りの土器、拓本、木綿織物、竹かご、歴史探訪コースを展示します。

会期/10月14日(土)~11月12日(日)

●資料館活動団体作品展(後期)

裂き織り、手芸、藍染め、扇凧、農芸、ほうき作りなど各団体の作品を展示します。

会期/11月18日(土)~1月8日(祝)

●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき/9月17日(日) 午前10時~正午

定員/8組(申込み順) 参加費/1組500円

会場/旧金子家住宅

申込み/9月2日(土)~10日(日)に電話で

協力/市民学芸員

●ふるさと探訪 針ヶ谷から三芳竹間沢

とき/9月30日(土) 午前8時30分~午後0時30分

集合/みずほ台駅西口 定員/20人(申込順)

主な見学地/俱利伽羅不動、針ヶ谷氷川神社、御獄塚、三芳町立歴史民俗資料館

参加費/500円(当日)

申込み/9月28日(木)までに電話で

主催/資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●さつまいも掘り

とき/10月22日(日) 午前10時~、午前11時~
(小雨決行。悪天候の場合翌週に延期)

定員/各12組(申込順) 集合場所/旧金子家住宅前

参加費/1組1,000円

持ち物/持ち帰り用の袋、シャベル

申込み/10月1日(日) 午前9時から電話で

主催/難波田城公園活用推進協議会

●古民家コンサート

とき/10月22日(日) 午後2時~2時30分

会場/旧大澤家住宅

出演/ナチュラルビート(マリンバ・パーカッション)

定員/30人 参加費/無料 申込み/当日受付

主催/難波田城公園活用推進協議会

●ちょこっと体験「たくほんをとろう」

とき/11月5日(日) 午後1~3時の間で20分程度

会場/講座室 指導/資料館友の会拓本部会

●ミニほうきづくり

とき/11月19日(日) 午後1時~3時20分

会場/講座室 対象/中学生以上

定員/10人(応募多数の場合は市内在住者優先)

費用/500円(材料代) 持ち物/エプロン

指導/ほうき作り伝承会

申込み/11月1日(水) 午前9時から電話で

●麦づくり体験(全7回)

公園内の田畑で麦を育てます。育てた麦は小麦粉や麦茶にして試食・持ち帰りができます。

とき/11月11日、1月27日、3月2日(または4月13日)、5月25日、6月8日、6月29日、7月13日(すべて土曜) 定員/10組(1組4人以内、申込順)

対象/市内在住・在学・在勤者を含む家族又は友人 参加費/1組500円(食材費等)

協力/難波田城いきものがかり

申込み/10月1日(日)から電話で

●ちよっ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月24日(日) ぼたもち

田舎まんじゅう販売
第1.3日曜日 10:30~

10月22日(日) ぶかしいも

11月はお休み ※11時より販売。売り切れ次第終了

※各イベントの詳細は広報「富士見」を御覧下さい。



富士見市立難波田城資料館

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時~午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時~午後6時(4月~9月) 午前9時~午後5時(10月~3月)

資料館公式サイト

